

授業科目	保育実践演習	2単位	必修	演習	2学年通年	担当教員	教授 池田 正雄			
授業の概要	①保育の場における保育実践力に関して、原理と実際を学ぶ。 ②保育実践力を育む方法と内容について理解を深める。 ③保育をめぐる社会的状況と保育士に求められる役割について理解する。 ④幼稚園・保育所等と小学校との連携について理解し、情報交換を通して子どもについて何を理解し合うべきかについて考えを深める。									
到達目標					学習成果Ⅰ		学習成果Ⅱ		学習成果Ⅲ	
					①	②	③	④	⑤	⑥
1.	保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2.	保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行い、理解する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3.	問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4.	必修科目および選択必修科目の履修状況を踏まえ自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照										
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標				復 習			
1	オリエンテーション 大学での学びと実際の保育との繋がりを学ぶ	1年次の実習について、整理しておく。	授業の進め方および評価の方法を理解する。科目設定の目的について理解する。				授業内容の振り返りをしておく。			
2	保育実践力を育む保育実践演習	テキスト①第2章を事前に読んでおく。	保育の場で保育実践力が求められる背景、保育者の専門性について考える。				授業内容の振り返りをしておく。			
3	保育の場における保育実践力Ⅱ—保育実践の実際—	テキスト①第4章を事前に読んでおく。	保育における遊びの意義と重要性について理解する。				授業内容の振り返りをしておく。			
4	保育における保育実践力Ⅲ—保護者支援—	テキスト①第5章を事前に読んでおく。	保護者支援のために必要な保育実践力について考える。保護者に向けての「連絡帳」の書き方。				保護者との連絡帳のやり取りにおいて必要な留意事項を理解する。			
5	保育実践力を育む方法と内容—グループにおける学び合い—(1)	テキスト①第6章を事前に読んでおく。	グループでの演習を行い、取り上げたテーマの分析、考察を行う。KJ法を用いたグループ活動。				授業の振り返りを通して、グループ活動の有効性に考える。			
6	保育実践力を育む方法と内容—グループにおける学び合い—(2)	テキスト①第6章を事前に読んでおく。	グループでの演習を行い、取り上げたテーマの分析、考察を行う。KJ法を用いたグループ活動。				授業の振り返りを通して、グループ活動の有効性に考える。			
7	保育実践力を育む方法と内容—グループにおける学び合い—(3)	テキスト①第6章を事前に読んでおく。	グループでの演習を行い、取り上げたテーマの分析、考察を行う。KJ法を用いたグループ活動。				授業の振り返りを通して、グループ活動の有効性に考える。			
8	保育実践力を育む方法と内容—グループにおける学び合い—(4)	テキスト①第6章を読んでおく。	ペープサート、パネルシアターなどの表現活動をグループ活動として行い、考察、検討を行う。				授業内容の振り返りをしておく。			
9	保育実践力を育む方法と内容—グループにおける学び合い—(5)	テキスト①第6章を事前に読んでおく。	ペープサート、パネルシアターなどの表現活動をグループ活動として行い、考察、検討を行う。				授業内容の振り返りをしておく。			
10	保育実践力をはぐくむ方法と内容Ⅱ—どのように説明すれば伝わるだろうか—(1)	指導案について既習の内容についてまとめてくる。	保育者による「発信」の際の留意事項について理解するために、4歳児の折り紙指導案を作成する。				授業内容の振り返りをしておく。			
11	実践力をはぐくむ方法と内容Ⅱ—どのように説明すれば伝わるだろうか—(2)	指導案について既習の内容についてまとめてくる。	保育者による「発信」の際の留意事項について理解するために、4歳児の折り紙指導案に沿って模擬保育を行う。				授業内容の振り返りをしておく。			
12	実践力をはぐくむ方法と内容Ⅱ—事例研究—(1)	テキスト①第7章を事前に読んでおく。	エピソード記録例を元に、事例を記述する力、語る力を向上させる方法について理解を深める。				事例研究における記述方法や考察の在り方について復習する。			

13	実践力をはぐくむ方法と内容Ⅱ—事例研究— (2)	テキスト①第7章を事前に読んでおく。	エピソード記録例を元に、事例を記述する力、語る力を向上させる方法について理解を深める。	事例研究における記述方法や考察の在り方について復習する。
14	実践力をはぐくむ方法と内容Ⅲ—ロールプレイングの・心理劇—	テキスト①第8章を事前に読んでおく。	ロールプレイングを通して、子どもの感じ方を体験し、体験後の気づきについてまとめる。	ロールプレイングの意義と方法について理解を深める。
15	保育実践力を育む方法と内容Ⅳ—プレゼンテーション— (1)	テキスト①第9章を読んでおく。	保育者による「発信」の際の方法と留意点について理解する。保護者向け「連絡文」を作成する。	園から保護者向け公式文書の形式等の留意点を復習する。
16	保育実践力を育む方法と内容Ⅳ—プレゼンテーション— (2)	テキスト①第9章を読んでおく。	保育者による「発信」の際の方法と留意点について理解する。「園だより」について考える。	園から保護者向け公式文書の形式等の留意点を復習する。
17	保育実践力を育む方法と内容Ⅳ—プレゼンテーション— (3)	テキスト①第9章を読んでおく。	子どもに向けた「プレゼンテーション」の際の方法と留意点について理解する。誕生日カード作成	プレゼンテーションの方法について理解を深める。
18	幼保小の連携—子どもの共通理解—	テキスト①89～92 ページを事前に読んでおく。	子どもの支援のために、教員間の共通理解と連携を行っていく際の留意点について学ぶ。	保育所と小学校間の連携による利点や留意点についてまとめておく。
19	幼保小の連携—接続カリキュラム—	テキスト②第9章を事前に読んでおく。	幼保小の接続期カリキュラムについて学ぶ。アプローチカリキュラムを自分なりに考案する。	授業内容の振り返りをしておく。
20	幼保小の連携—接続カリキュラム—	テキスト②第9章を事前に読んでおく。	考案したアプローチカリキュラムを発表する。	授業内容の振り返りをしておく。
21	保育の内容と保育方法の研究	テキスト②第5章を事前に読んでおく。	多様な保育の内容や方法を学ぶ。保育形態や諸外国の保育方法についてグループで調べる	様々な保育形態や保育方法について調べる。
22	保育の内容と保育方法の研究	テキスト②第5章を事前に読んでおく。	多様な保育の内容や方法を学ぶ。保育形態や諸外国の保育方法についてグループで発表する	授業内容の振り返りをしておく。
23	保育のねらいを踏まえた指導計画の作成	テキスト①事例3 97～100 ページを事前に読んでおく。	指導計画を作成する際に留意しなければならない視点を学ぶ。実習で実施した責任実習を振り返り、検討する。	授業内容の振り返りをしておく。
24	保育実践の振り返り	保育実習日誌の考察部分を読み返してくる。テキスト②第7章参照。	実習の振り返りとして、保育者の意図に関する事例や「困った」「気になった」場面など自分の保育に関する事例を記述し、検討する。	授業内容の振り返りをしておく。
25	特別な配慮を必要とする子どもに対する援助と連携	テキスト②第4章を事前に読んでおく。	特別な配慮を必要とする子どもに対する援助と連携のあり方について、事例をもとに討議し学ぶ。	特別な配慮を必要とする子どもへの対応について学んだことを振り返る。
26	協同的な学びと育ち	テキスト②第6章を事前に読んでおく	「10の姿」に含まれている協同性を培う協同的な学びの意義を理解する。映像教材など具体的事例を検討し、発表する。	協同性を育てる保育の在り方について整理しておく。
27	保護者および地域との関係づくり	テキスト②第8章を事前に読んでおく。	保護者、地域、関係機関との協働の在り方について、事例をもとに討議し学ぶ。	保護者、地域、関係機関と関係を築きながら行う保育について整理しておく。
28	園の安全管理	テキスト②第10章を事前に読んでおく	保育所保育指針に基づいて、園での安全管理の考え方を理解する。	園での安全管理について学んだことを整理しておく。
29	保育者への歩みと足跡—履修カルテと自己評価	テキスト②第1章を事前に読んでおく。	履修カルテを作成し、これまでの学校での学びと学生生活で経験したことを整理し、今後の自分の課題を見いだす。	授業内容の振り返りをしておく。
30	自分の保育者像を目指して	テキスト②第12章を事前に読んでおく。	保育者像を形成する要素を踏まえながら自分の目指す保育者像を考える。	授業内容の振り返りをしておく。
成績評価	授業課題・発表 (40%) 期末試験 (60%) 合計 100%			
教員からのコメント	大学での学びは、実際の保育場面向けたものです。科目や実習で学んだことを振り返り、保育者として必要な知識・技能が習得できているかをこの授業を通して確認しましょう。授業内容は演習ですから、一人ひとりの主体的な学びが前提になります。準備学習と復習にも必ず取り組んだ上で授業に臨みましょう。保育者に求められる役割は、児童福祉法をはじめとする法制度や保育所保育指針からも明確になり、社会が求めている内容も広がってきています。2年次の今、改めて保育者の役割をまとめ、学んだ知識を実践の場で実際に発揮できるように、演習を通して考えていきましょう。			
教科書	①書名 保育・教職実践演習 [第2版] 著者 小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著 発行所 建帛社 ②書名 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 著者 小櫃智子、矢藤誠慈郎編著 発行所 わかば社	推薦図書	書名 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』／発行所 チャイルド社	